

A0101-04	バルブを開けても物が出ない時は、細心の注意を		
本文	通常閉めているバルブを開けた場合、すぐに内容物が出てこないことがあるが、絶対に開け放しのまま放置しないこと。また、バルブを開け針金等で突つくと突然内容物が出て、バルブを閉じられず事故になる。詰まりを確認したらバルブを閉め、先ずはそのままとし、最善の処置を検討すること。		
リスクの種類	漏洩、薬傷、熱傷	関連目次: 章節	A0302
理由(何故)	・ドレンバルブ、サンプリングバルブ、小口径のブローバルブは錆、スラッジ、重合物、液体の凝固物などで詰まっている場合がある。その場合、バルブを開けて詰まりをとろうと針金などを突込んだりすると、突然、内容物が噴出し、薬傷、熱傷、また、可燃性ガスの場合は着火、火災爆発に至る危険性がある。		
方策	<p>1) 作業を中止し、最善策(本作業をしない代替案を含め)を検討する。</p> <p>2) 運転停止でパージできる機会まで待つ。</p> <p>3) 運転停止が出来ずかつ緊急なら、治具等を利用し噴出しても安全なように出来る方法で実施。この場合には、事前に危険予知を行い、必ず適切な保護具を装着すること。また、然るべき部署の責任者の許可を得ること。</p> <p>4) 緊急対応としては以下のような方法がある。但し、配管やバルブの腐食が進んでいる場合や内部の圧力が高い場合には実施してはならない。</p> <p>① ゆっくり暖める。</p> <p>② 木槌などで手首を使う程度の軽い衝撃を与える。</p> <p>③ 正常なバルブを直列に組み付けて二重バルブとし、上記①、②、その他の作業を行う。突然内容物が噴出しても二段目のバルブで閉止できる。</p>		
事故例	<p>① 減圧蒸留塔の塔底油をサンプリングするため、塔底油ポンプ出口ドレンバルブを開いたが、油が出てこなかった為、開放のまま打ち合わせをしている間に、重油が突然流出し火災が発生した。使っていないドレン弁は閉塞することがあるが、温度によっては溶解し、開通して流出することがある。 非常常作業の想定・習熟訓練などは日頃実施しておくこと。</p> <p>② 常時使用していないサンプリングバルブに重質油が固着し、閉塞していた。スチームで加熱したが貫通しないため、針金で数回突ついたら、突然、高温の油が噴出し着火した。</p> <p>③ LPG配管のドレンを排出するためドレンバルブを開いたがバルブが詰まり排出できなかったため、針金で突ついたら、LPGが噴出した。 (JST 失敗知識データベース)</p>		
法的参考事項			
備考			